

# 校庭の木は二酸化炭素のタンクだ！

～副読本「三重の森林とわたしたちの暮らし」を活用して～

三重大学教育学部附属小学校



ねらい

- ・ 樹木は、燃やしたり腐ったりしない限り、二酸化炭素を蓄えたままでいられるタンクであることを理解する。
- ・ 校庭にある木が蓄えている二酸化炭素量を調べ、人が1年間に排出する二酸化炭素量と比較することで、二酸化炭素排出量を減らしたい、樹木を大切にしたいという心情を育てる。

三重大学教育学部附属小学校6年生では、三重県農林水産部発行の森林環境教育副読本「三重の森林とわたしたちの暮らし」を活用して、森林環境教育に取り組んでいます。この日は、この副読本の監修を行った三重大学教育学部准教授平山先生を講師に、副読本の「校庭の木を調べようー木がたくわえている二酸化炭素ー」の項目を勉強しました。

まず、講師から、世界では森林の違法伐採など森林の減少が問題になっているが、日本は国土面積の約7割が森林であり、さらに森林の蓄積量は増えているのに、世界有数の木材輸入国であること、日本の森（人工林）は伐られないことによって荒廃していることなどの話を聞き、もっと国内の木、地域の木を使うことが大切だということを学びました。

次に、木は二酸化炭素を蓄えることができるということを学び、「木が蓄えた二酸化炭素が、また空気中に戻るのはどんな時ですか。」という質問には、「燃やした時。」「腐った時。」とい

う正しい回答がありました。そして、今、地球温暖化に見るように空気中に排出される二酸化炭素量が多くなっていることが問題になっていて、少しでも二酸化炭素を少なくす

